

会 議 録

- 1 会議の名称 令和4年度まち・ひと・しごと創生推進会議
- 2 開催日時 令和4年8月10日（水）午後7時00分から8時15分まで
- 3 開催場所 熊取町役場北館3階大会議室
- 4 議 題 議題 令和3年度における KPI 実績値等について
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴者数 0人

7 審議会等の概要

○議題 令和3年度における KPI 実績値等について

(1) 事務局説明

委員の紹介後、事務局から本会議の趣旨及び資料に関して説明した。

(2) 委員・事務局間の意見交換

事務局からの説明後、委員・事務局間で意見交換と質疑応答を行った。内容については次のとおり。

(委 員) ブルーベリーの第3農園について説明してほしい。

(事務局) 第1・2農園はブルーベリー狩りを楽しんでもらうために整備したが、第3農園は、安定的な収穫量の確保をめざし、生産拠点として令和3年に開園した。町内にスイーツ店が多いという特性を活かし、地域ブランドとしてブルーベリーを使ったレシピを開発するうえでも、一定の収穫量が必要であることから、開園の支援を行った。

(委 員) 農園の経営主体はどこか。

(事務局) 自主事業として運営しているNPO法人グリーンパークである。グリーンパークに対し、町が補助金を出しており、ふるさと納税の返礼品としても取り扱っている。町内外に対し、「熊取町といえばブルーベリー」と思ってもらえるよう取組を支援している。

(委 員) 熊取町といえば、水ナスやくまとりコロッケというイメージが強いが。

(事務局) 水ナスは、季節が限定されるにもかかわらず、ふるさと納税においても一定の寄附があるので、町の地域ブランドとして根付いていると感じている。

(委員) 第1・2農園はレクリエーション農園ということだが、町全体において、レクリエーション農園は広がっているのか。

(事務局) 一般客が入ることができる農園は和田山ベリーパークのみであるが、レクリエーション農園というかたちで住民に貸し出している農園は、現在、町内で11箇所ある。

(委員) ひまわりバスの利用者数が増加したとのことだが、コロナの影響で利用者が増えたのか。

(事務局) コロナの影響もあると考えられる。断定できないが、国の交付金を活用し、経済支援・移動支援を目的に、令和2年度と3年度は無償化したため、取組が徐々に広く伝わったことから、利用者が増えた可能性がある。

(委員) 「無料だから」という理由では手放しでは喜べない。今後、熊取駅西側の開発も踏まえて、コースの変更や見直しも必要になってくるのではないかと。AIオンデマンド交通について詳しく教えてほしい。

(事務局) ひまわりバスは地域の公共交通を補完する役割として始まった経緯があるが、ひまわりバスの熊取駅への乗り入れについては、多方面から意見をいただいている。路線バスを含めた地域の公共交通のあり方については、令和4年度にワークショップを実施し、住民の意見を伺いながら検討する予定である。

AIオンデマンド交通は、家からバス停留所までの「ラストワンマイル問題」等の課題解決に向け、指定乗降場所と、公共施設等の目的地となる施設の間を、AIが最適なルートを設定して行き来する乗合型タクシーである。地域にどれだけのニーズがあり、また運営が成り立つか否かを検証するため、令和4年秋に実証実験を実施する。

(委員) 町の取組として、高齢者の見守りのサービスはあるのか。

(事務局) 月1回、定期的に電話連絡により生活状況を確認する「お元気コール」がある。

(委員) 高齢者の見守りサービスは素晴らしい仕組みだと感じた。若年層の人口を増やす取組を行っているが、今後はこのようなサービスを求めてシニア層の人口が増えていくかもしれない。

(委員) 自治会の仕事の一環で、外灯の電球が切れていないかの確認で町内を巡回した際、避難所の案内看板の電球切れが多かった。

(事務局) 安全・安心のまちづくりが重要であると認識している。ただ、行政ですべてを担うことは難しいため、コミュニティ活動のありがたさは日々実感している。町と自治会で情報を共有し、自治会でお願いできる部分はお願いし、防犯灯の管理など行政が本来担うべき部分は町が担い、地域コミュニティとして連携し、住み続けてよかったと、住みたいと思ってもらえるようなまちづくりを進めていきたい。

- (委員) 自治会加入率はどうか。
- (事務局) 加入率は一時期に比べると低下している。災害などが発生したとき、頼れるところはコミュニティであり、それこそが自治会加入のメリットだという説明を行っている。自治会加入率のアンケートも実施するなど、役場としても、自治会の意義をあらゆる場面で伝える努力を継続していく。
- (委員) 外灯の電気代は自治会負担であるため、自治会加入者と非加入者では不公平感がある。
- (事務局) コミュニティがしっかりしているからこそまちの安全が守られている。「町内における全刑法犯罪認知件数」が低下していることも、防犯灯及びコミュニティ活動のおかげだと考えられる。担当職員も、自治会の相談を受ける度、自治会の役割とその重要性を説明している。
- (委員) 自治会加入者と非加入者の不公平感の解消策として、本来有料のゴミ袋を加入者は無料でもらえるなど差別化し、加入者に何らかのメリットを感じてもらえる取組が必要ではないか。
- (事務局) まちづくりを進める上で、今の3.9自治会がないと成り立たないため、自治会加入率の向上に努めていく。
- (委員) 熊取駅西側の開発状況についてはどうか。
- (事務局) 開発エリアを中心に円を描いたとき、開発面積は泉佐野市の方が広い。泉佐野市と連携して開発事業を進めている。
- (委員) 税金を使って開発することになると思うが、果たして町民のためになるのか。
- (事務局) 事業費は受益地の面積で按分し、泉佐野市と熊取町で負担している。熊取駅西側の開発は、熊取駅全体のにぎわいづくりにもつながることが想定される。熊取駅前の活性化を図るため、駅前に出店することで最大1千万円を補助する制度もある。
- (委員) 熊取駅から永山病院までの町道に出店するには、建物を建設しなければならず、費用が1千万円以上かかるため、補助金のメニューとしては使いにくい。
- (事務局) 空き店舗がいくつかあったため、そこに入ってもらうことを想定していた。事業を新たに始めたい人の背中を少しでも押す目的で、産業振興のアクションプログラムのひとつとして取り組んでいる。
- (委員) 熊取駅西側の開発が進むことで、町外から熊取町に足を運んでもらえれば、経済が動き、にぎわい創出が期待できる。
- (事務局) 営業活動をしていくことも重要であると認識しており、熊取駅前への出店を図りたい。
- (委員) 約30年前、熊取駅前の再開発について商工会から委託を受け、一緒に駅前の開発プランを作成した。当時はバブル期だったため、大企業からは駅前に高層ビルを建設してはどうかといった提案もあったが、住民が参加するシンポジウムを

開催し、開発のあり方について議論を重ねた結果、「熊取町らしい」駅前にすべきという結論に至り、駅前を緑化することとした。住民参加、住民の意見を聞くことを通じて、みんなで町の運営をしていくことが重要だと感じる。

(事務局) 町制施行70周年の記念事業として、熊取駅前のロータリーにシンボルツリーとしてシマトネリコとタイサンボクの植樹をした。また、造園事業者のボランティアに駅前の緑化をしてもらっている。町として、駅前のあり方については、住民の方々と合意形成を図っていきたい。

(委員) 細い道のゴミ収集が置き去りにされていると感じる。ゴミは、収集場所である幹線道路まで持っていけないといけませんが、高齢者にとってゴミを運ぶことは重労働であるため、改善してもらえないか。

(事務局) 今すぐ解決方法は提案はできないが、ボランティアで高齢者のゴミを一緒に運ぶ取組をしている自治会もある。

(委員) 担当課からは、1軒だけではなく何軒かの意見として要望してほしいと言われた。

(事務局) 自助だけでは立ち行かなくなっている状況であることは認識している。

(委員) 近年全国的にも水害が多いが、住宅開発への対策は考えているのか。

(事務局) 浚渫工事を行い、経年変化で増えている堆積物や木々を除去している。大阪府が管理している河川についても、早い時期に護岸工事などの取組を進めてほしいという要望は伝えている。

(委員) 大阪府岸和田土木事務所からは浚渫工事する費用はないと言われた。住宅街に調整池はあるが、旧の村にはない。

(事務局) 令和4年度に、ため池や河川等を総合的に管理できる新しい部署を設置しており、今後も安全・安心のまちづくりをめざす。

(委員) 町内には遊び場がない。トランポリンパークや、バッティングセンターなど体を使って遊べる場所がほしい。

(委員) 大久保の区民ホールでスケートボードする子どもが多く、警察沙汰にもなっている。

(事務局) 安全パトロール隊にも声をかけておく。

(委員) 熊取駅の近くに保育所はあるのか。電車通勤の親が駅近くに預けることができる場所があれば良いと思う。

(事務局) すみれ保育園がある。子育て世代の多様化するニーズを把握するとともに、待機児童を出さないよう担当課も尽力している。

(委員) 産業活性化基金事業補助金について、創業支援が最も重要であり、より中身を充実させたい。創業したい人を育てるために、商工会もセミナーを行っている。同補助金を活用した人が事業を維持していくための取組を商工会とタイアップしていけたらと考えている。

(事務局) 産業活性化基金事業補助金のメニューを拡充し、キッチンカーの開設支援の補助メニューも準備している。町の地域実情を踏まえたうえでの創業支援の取組であり、ほかにも中長期的に取り組む補助メニューも検討している。商工会と連携し、金融機関の知恵も借りながら商工業を盛り上げていきたい。

(委員) 京都大学複合原子力科学研究所の研究用原子炉(KUR)が廃炉になると聞いたが、それに伴い撤退、縮小する事業者はあるか。何か影響はありそうか。

(事務局) 研究用原子炉(KUR)は令和8年に運転停止するが、運転停止から廃炉までは10年以上はかかるという話も聞いており、今すぐに周辺の関連企業が撤退するという話はない。同研究所では、研究用原子炉(KUR)の廃炉後の新たな研究の方向性についても検討しており、引き続き、協議していく予定である。

(事務局) 今後については、今日いただいた意見を事業担当課を意見をフィードバックし、事業の改善の取組を進めていく。

8 審議会の情報	名 称	まち・ひと・しごと創生推進会議
	根拠法令等	まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱
	設 置 期 間	平成27年4月30日～
	所 掌 事 項	本町における地方創生の推進にあたり、熊取町総合戦略の策定等について意見を述べること。
	委 員 数	8人

9 担 当 課 総合政策部企画経営課